



ムダ水が見える！ (スイットシステム+マネジメント)

スイットマネジメントシステム

業務改善型節水マネジメントシステム

SMS

**「節水」は、単に水を減らすのではなく、
適正な水量を維持する事が大切です。**

そのためには、「調査・診断・プランニング・設置・導入後の監視測定」が適正に行われなくてはなりません。経営システムのPDCAに準拠したサイクルで運用するのがアメニティネットワークのスイットシステムです。

■システム1:スイットシステム

| | | |
|------------------------|--|--|
| 1 導入前の診断調査 | 施設全体の現状水利用状況を詳細に診断調査します。 ※施設の規模にもよりますが、3日～7日程度の調査が必要です。 | ①全水栓の単位時間当たりの吐水量を計測 (サンプリングではなく全数調査) ②節水が可能な箇所と不可能な箇所の確認と分類 ③各水栓の利用状況のヒヤリング |
| 2 分析&プランニング | 業種業態に応じて、全ての水栓の適正水量分析を行います。そのうえで、総合的な適正水量化による水量削減率のプランニングを実施します。 | ①現行使用水量と節水バルブ導入後の水量削減率の算出 ②水量削減によるコスト削減額の算出 ③削減費用と導入費用の差異を算出 (お客様の利益) |
| 3 設置作業 | 節水可能箇所については、約150種類の節水バルブ*の中から、適切なバルブを水栓に設置していきます。 | ①個々の水栓にどのバルブを設置したのか、個別管理を実施 |
| 4 導入後の維持管理点検 | 導入後、適切な水量が維持できているかの定期巡回を行い、不具合箇所などのメンテナンスを行います。 | ①定期巡回による使用状況や水栓等の変更の確認と水量適正化調整業務 ②点検後のお客様とのミーティング (点検報告や導入時のコスト意識の再啓発など) ③書面による点検報告 (点検・対応箇所・節水効果など) |

*独特のスパイラル形状(特許取得)と先端取付方式を採用したバルブ。水栓単位で、最大80%の節水が可能です。

■スイットシステム単体の適用範囲

スイットシステムによって個々の水栓は、適正な流量になるように維持管理されますが、その利用状況の管理までには至りません。

**その課題を解決できるのが、
「スイットマネジメントシステム」です。**



株アメニティはISO14001の認証を取得しています

THANKS FOR WATER
限りある地球の資源に



株式会社アメニティ

水栓毎に水量が把握できるので、 運用の課題解決へ導く事が可能です。

■システム2:スイットマネジメントシステム(スイットシステム+マネジメント)

●スイットマネジメントシステムの特徴

スイットマネジメントシステムは、水栓単位、用途エリア別に、最小で5分or30分単位で使用水量の計測が可能です。
計測データは、インターネット網を經由して、お客様の業態に合わせた形にレポートされ、閲覧する事ができます。
日・時間・箇所での使用水量を把握する事ができるので、スタッフのマネジメントまでも可能になります。

●例えばこんなムダ水が見えます

業務の運用にあわせたデータ収集で、スタッフ毎に異なる使用方法に明確な運用基準を策定し、検証する事ができます。

・食材を流水で解凍する例

食材によって、必要な解凍時間は決まっていますので、食材使用量から必要な解凍利用水量と実際の使用水量を比較することでムダ水が見えます。

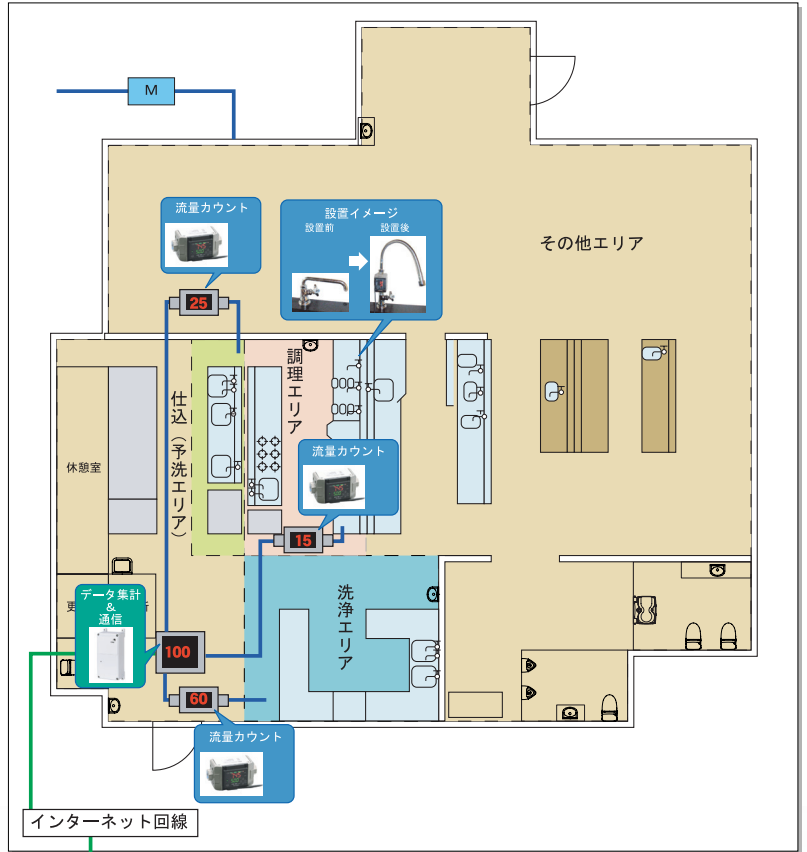
・洗浄用シンクのため水の例

ため水は、規定量の水がシンクに満たされればよいので、規定量と使用水量との比較でムダ水が見えます。

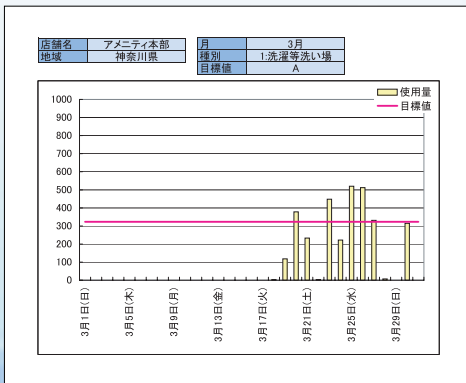
・野菜のアク抜きに使う水の例

食材によっては、水に浸してアク抜きをするものがありますが、この場合も規定量把握をすれば、ムダ水が見えます。

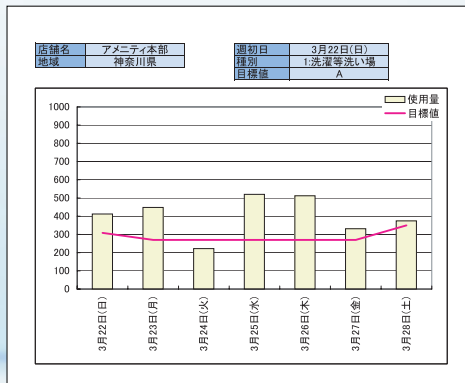
●概要図



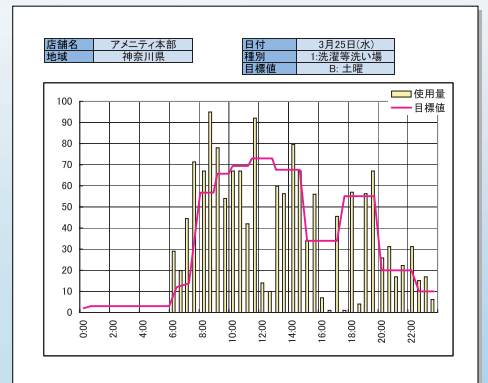
●水栓別月次使用水量レポート



●水栓別週次使用水量レポート



●水栓日次使用水量レポート



■節水診断士

アメニティネットワークのスイットシステムに基づき、建物・施設の全水栓を対象に適正水量の診断・分析・管理ができる知識・技能を有する者をいう。

●お問い合わせは

0904